

市民手づくりの自然歩道「守谷野鳥のみち」+
守谷市指定史跡「守谷城址」のご案内

2026年4月版



<アクセス>

- 徒歩: TX・関鉄守谷駅八坂口: →守谷野鳥のみち林間コース中央北口(約30分)
→守谷城址公園(約20分)
- 関鉄南守谷駅
バス: TX・関鉄守谷駅西口: 市営モコバス「みずき野・松並青葉ルート右回り」愛宕中学校前下車
(徒歩約10分) →守谷野鳥のみち林間コース中央北口
- TX・関鉄守谷駅東口: 関鉄バス取手駅西口行き城址公園入口下車(徒歩1分)
→湿地コース城址ルート・城址南口
- TX・関鉄守谷駅東口: 関鉄バス取手駅西口行き守谷小学校前下車(徒歩2分)
→守谷野鳥のみち湿地コースバルコン広場入口
- 車: **湿地コース:** 市道郷州沼崎線「鳥のみち専用駐車場(無料)」(守谷小学校職員
駐車場近斜め向かい) →バルコン広場(カーナビ MAPCODE =
18.405.205*02)
- 林間コース:** 市立愛宕中学校正門前左折学校敷地沿い直進約90m(標識あり)
→中央北口(カーナビ MAPCODE = 18.375.436*35)
- 城址ルート・城址南口:** 市道郷州沼崎線城址公園入口交差点南30m 東入る90m 専用P
→城址ルート城址口(カーナビ MAPCODE 18.405.413.*61)

発行: 守谷市観光協会 連絡先: 守谷市生活経済部経済課商工観光グループ(☎0297-45-1111
内線 268 FAX:0297-45-5703 mail: keizai@city.moriya.ibaraki.jp)
HP: <https://moriyashikanko.com> 休日連絡先: 090-8170-1898 発行日: 2026年4月1日

守谷野鳥のみち総延長 4.6km
ルート概略図
(分割地図はウラ面)



湿地コース(総延長 2.6km)

～上流域(木道・テツキ)	300m
～下流域(木道・テツキ)	330m
～小鳥の道(林道)	110m
～城址ルート(木道・テツキ)	320m
～接続市道	1,530m

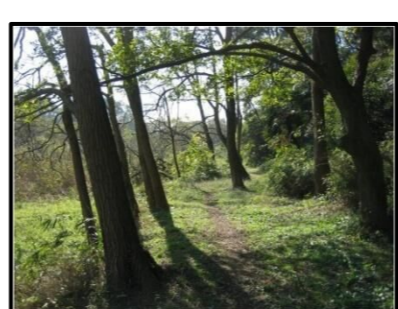
林間コース(総延長 2.0km)

～北ルート(林道)	130m
～水辺ルート(木道・テツキ)	160m
～水辺広場(木道・黒板小屋)	130m
～中央東ルート(林道)	180m
～中央西ルート(林道)	120m
～藤の園(林道・木道・テツキ)	130m
～南ルート(林道)	450m
～接続市道	720m

守谷野鳥のみちご利用上の注意事項

- ～都市公園ではありません。ワイルドな自然環境を自然との共生による利用です。全域では自己責任での利用が大原則です。身の安全はご自分でお守りください。
- ① 服装:** 肌を露出させない服装、手袋、帽子、しっかりした靴など。
 - ② 利用時間帯:** 夜間・薄暗い時間帯の立ち入り禁止(危険な動物に出会う可能性あり)。
 - ③ 利用制限:** 歩道外・水路は立入禁止、ランニング禁止、各種ゲーム・スポーツ行為の禁止、自転車・乳母車・車椅子など器具の持込み・走行禁止、騒音行為・目的外使用禁止。
 - ④ 犬ペット同禁止(湿地コース):** 色々の弊害・危険性あり、ご遠慮ください。
 - ⑤ 餌付け:** 野鳥や動物への餌付けは絶対に禁止(自然界のバランスが崩れる)。
 - ⑥ イノシシ:** 各入口に掲示の警告板を熟読、しっかり厳守(習性をよく知り、静かに遠ざかり、近づかないでください)。
 - ⑦ 採取・投棄:** 植物の採取・切り取りや小魚等の採取は禁止、ごみ投棄・動物等の放棄禁止。
 - ⑧ 火気厳禁:** 禁煙・火気使用は絶対禁止(火災の危険性あり、結果は法的責任を問われることがある)。
 - ⑧ 器物損傷:** 施設や器物の損傷は絶対に止めること(害賠償請求があり得る)。
 - ⑨ ルールの厳守:** 掲示のルールを守り、皆で楽しみましょう。

令和8年4～12月、湿地コース下流域で
木道嵩上げ工事中
(平行仮設路の安全通行に協力願います)



守谷市指定史跡「守谷城址」略史

※平将門築城説は伝説の域を越えないが、その子孫と言われる相馬氏の居城。
 ※戦国時代末期、守谷領支配を狙う関宿城主が、小田原北条氏4代氏政の了知を得たとの情報を察知した相馬氏 20 代治胤が、北条氏政の庇護下にある氏政の従兄に当たる足利將軍家古河公方足利義氏に守谷城進上を申し出、受理される。
 手狭との義氏の苦情に接し、北条氏政直々の出馬・采配により、守谷城は平地・城山の二元構造に拡張され、北相馬台地から内海に突き出た半島部は大堀切・空堀・土塁・各曲輪・土橋・枡形虎口・船着場など、堂々たる後堅固の要害に大改造された(永禄 11 年 = 1568)。
 結果は、公方御座所になることはなく、守谷城は相馬氏に返還され相馬要害と呼ばれた。
 ※北条氏支配下の守谷城は、北条氏軍勢の出陣基地となったが城攻めにはならず、小田原攻めの際に豊臣方に接收され、江戸時代になって設置された守谷藩の詰城となる。
 初代藩主は徳川家康三河時代の近習土岐定政、その後土岐定義・頼行が 2-3 代、4代は後の大老堀田備中正俊、5代(最後)は前大老酒井忠清の嫡子酒井河内守忠孝。
 平地部には藩邸(陣屋)、大手門から町立てが行われ、鎮守の八坂神社が移座されて目抜き通りの中央に排水溝のある立派な城下町が形成され、広域の中心となっていた。
 天和元年(1681)、5代藩主酒井忠孝の厩橋藩転出により廃藩・廃城となり、収公される。
 ※畿内なのに廃城後破却されることなく、平将門ゆかりの古城として、広島藩の全国古城調査に組み入れられ、関宿藩士の縄張り調査や、多くの武士・文人・小林一茶などの俳人・旅行者などの訪問記、俳句、和歌、紀行記、古絵図・伝記などが遺されている。
 ※現在、藩邸(陣屋)などのあった平地部は隠滅しているが、城山部はほぼ原型が保存されており、当時の姿を彷彿させるイラスト説明板などが設置されている。
 つくばエクスプレス沿線で小田原北条氏の手になる中世城郭の遺構としては最大のもので、北条流築城術の特徴が遺されて築城者の息吹が感じられ、周囲が内海だった頃を想起させるような二の曲輪櫓台横からの常総の野の遠望など、優れた景観を楽しめる。
 城山の一部と内海跡には守谷城址公園が整備され、隣接の市民でづくり自然歩道「守谷野鳥のみち」4.6km により、都市環境・自然環境・守谷市最大の史跡の連携が図られている。
 ※守谷城址(城山部)では、守谷市教育委員会と連携して、守谷市観光協会が環境整理・復元、説明板・案内板を設置、木橋復元構想、利活用を展開している。

守谷城址の推奨見学スポット
 ~御馬家台枡形虎口、大堀切、二の曲輪展望台、二の曲輪西土塁線、土橋、楯形曲輪、二の曲輪坂枡形虎口、船着場跡など

「守谷野鳥のみち」のハイライト

※平成 14 年(2002)から令和 7 年(2025)まで 24 年間、行政職員・市民の 4 名グループの発想に始まり、守谷市観光協会の市民ボランティアたちが主導して整備した。多世代・多セクターの絶えざる努力の結晶。圏域面積: 70 ヘクタール。
 国内外の先進事例を参考に、全国でも珍しい市民の創意工夫による手づくり総延長 4.6km の自然歩道ネットワーク。
 ※近隣小中学生たちが参加した林地道路協の不法投棄ごみの撤去に始まり、整備レベルに応じて随時守谷市職員や愛宕中学校野鳥の森少年団(全校生徒)が作業に協力。守谷市との協働、首都圏新都市鉄道(つくばエクスプレス)との連携、アサヒビール(茨城工場)の協力などによる多セクターの事業フレームとして展開している。
 土地所有者の用地提供や近隣常連利用者の情報提供、茨城県森林組合連合会や各界企業の協力なども大きなサポートとなっている。令和 5 年度国土交通省「手づくり郷土賞(一般部門)」認定事業。
 ※中心市街地隣接の大規模緑地の保全・増進と有効利活用への地域住民の意志を具体的に示すこと、生態系との共生、「中心市街地(都市環境)と守谷城址(歴史環境)を直結する自然歩道(自然環境)」の強化、「住みよいまち守谷」の重要な構成要素である都市環境と自然環境のバランス維持、守谷市の魅力創出・地域発展軸の一つとしての展開など、目的・目標をどんどん進化させている。
 ※耐久性維持のため茨城県北産ヒノキ原木を主資材に、創意工夫による手づくりで利用者視点の計画・整備、改良・改善を進め、各セクターの協力により恒久性の担保を図っている。